

西尾市地区別防災カルテ

①基本情報

地区No	26
地区名	東幡豆小学校

●地区の概況

市南東部の沿岸に位置し、大部分は山地・丘陵地である。谷部には谷底平野が形成され、山裾には段丘や扇状地が分布している。沿岸部には埋立地が点在し、漁港等が整備されている。沿岸部の平野と丘陵地の境界部分には砂丘・後背低地がみられるほか、山間部では人工的に改変された箇所が点在する。沿岸部の平野に沿って、名鉄蒲郡線が走っており、国道247号が南西から東へ抜けている。南部の丘陵地はレジャー施設として整備されており、北部の三ヶ根山にはスカイラインが走っている。

●人口の状況 ※令和2年国勢調査より

世帯数	1496 世帯	
65歳未満	2849 人	65.6 %
65歳以上	1486 人	34.2 %
合計	4341 人	

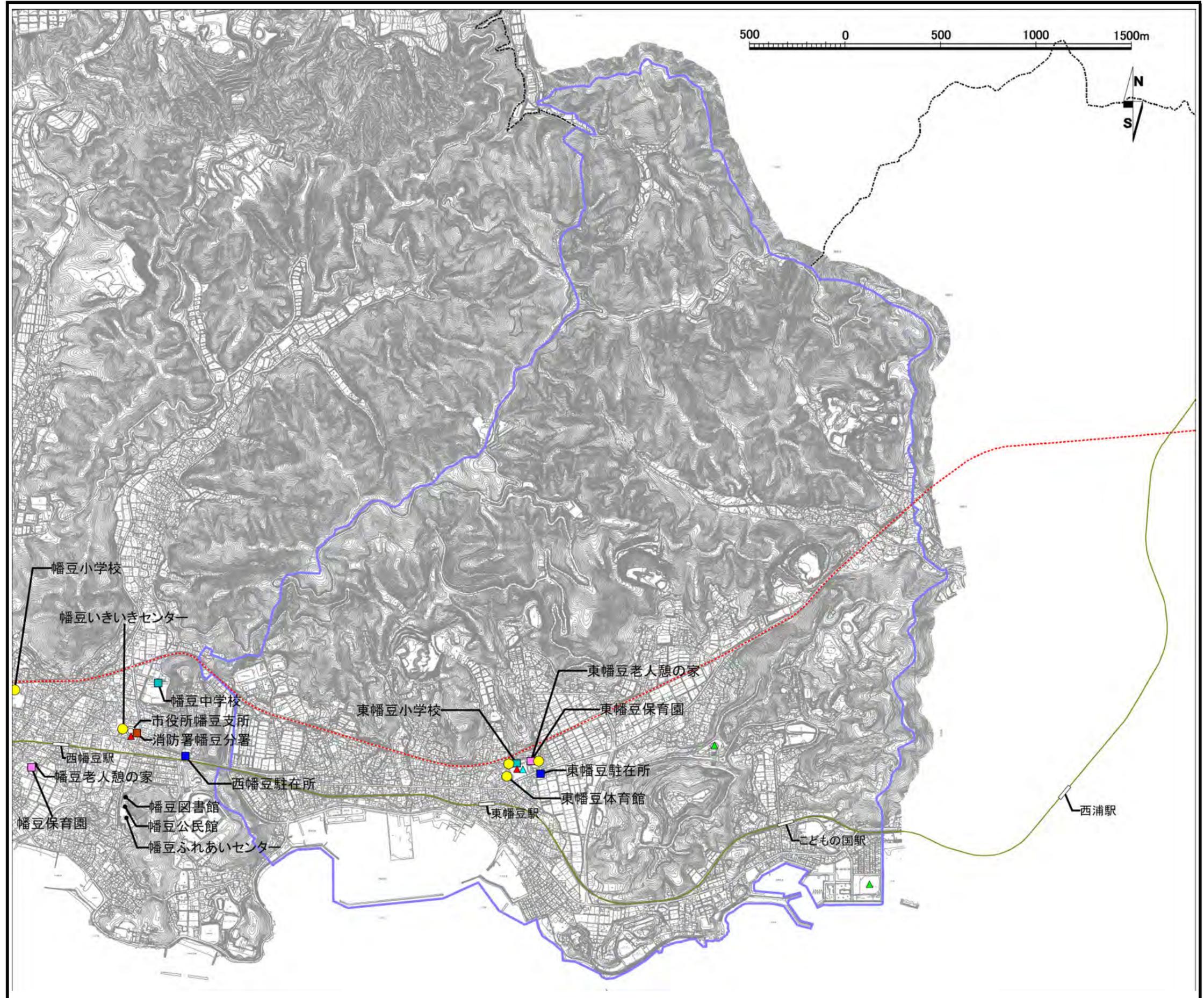
※合計値は年齢不詳の人口も含む

●地区の課題

丘陵地が多く、各種土砂災害の危険性が高い。津波及び高潮発生時は海岸部で浸水の危険性があるが、避難所が東幡豆駅北部に集まっているため、東端部の海岸部等から避難所までの距離が長い。

●凡例

● 指定緊急避難場所	■ 学校
● 指定避難所	■ 幼稚園・保育園等
● 津波一時待避所	▲ 防災倉庫・防災資機材庫・その他備蓄倉庫等
● 福祉避難所	▲ 水防倉庫
◎ 市役所・支所等	▲ 飲料水兼用耐震性貯水槽
■ 警察署等	▲ 防災活動拠点
■ 消防署等	▲ 衛生施設
■ 救急病院	● その他の施設
◆ 水位観測所	
◆ 雨量観測所	
— 小学校区界	- - - 市町村界
— 鉄道	- - - 緊急輸送道路



西尾市地区別防災カルテ

②洪水被害・土砂災害

地区No	26
地区名	東幡豆小学校

●地区別大雨等被害の特性

地区内には、洪水浸水想定区域図の作成対象となる河川が流れていないこともあり、浸水想定区域はないが、内水氾濫に注意する必要がある。
また、丘陵地では各種土砂災害が発生する危険性がある。

●避難環境評価

避難所収容者数	1289人
避難者数	-人
最長避難距離	約 - km

※避難所収容者数は洪水時のみの人数

●最大浸水深

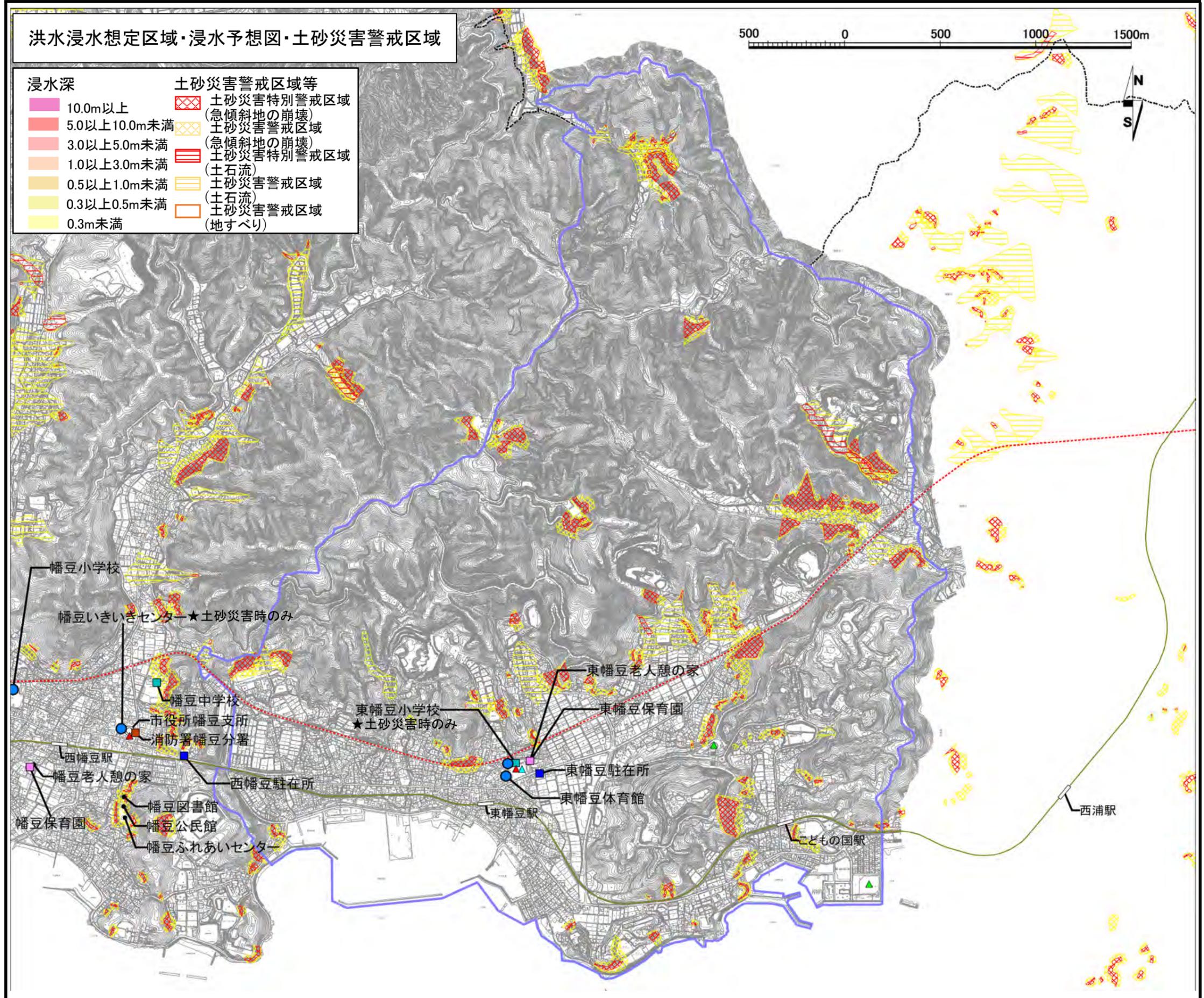
対象全河川(重ね合せ)	範囲外
矢作川	範囲外
矢作古川・広田川・須美川・安藤川	範囲外
朝鮮川	範囲外
矢崎川	範囲外
北浜川・二の沢川	範囲外
乙川	範囲外
鳥羽川	範囲外
八幡川	範囲外

●土砂災害リスク

土砂災害警戒区域(急傾斜地)	75箇所
土砂災害特別警戒区域(急傾斜地)	93箇所
土砂災害警戒区域(土石流)	20箇所
土砂災害特別警戒区域(土石流)	15箇所
土砂災害警戒区域(地すべり)	0箇所

●凡例

指定緊急避難場所	学校
指定避難所 (洪水・土砂時使用可)	幼稚園・保育園等
福祉避難所	防災倉庫・防災資機材庫・ その他備蓄倉庫等
市役所・支所等	水防倉庫
警察署等	飲料水兼用耐震性貯水槽
消防署等	防災活動拠点
救急病院	衛生施設
水位観測所	● その他の施設
雨量観測所	
小学校区界	市町村界
鉄道	緊急輸送道路



西尾市地区別防災カルテ

③地震被害

地区No	26
地区名	東幡豆小学校

●地区別地震被害の特性

過去地震最大モデルでは、沿岸部で震度6強、丘陵・山地部では6弱となる。(下図参照)
 平野部で若干液状化の危険性があるが、地区全域で液状化の危険性は低い。

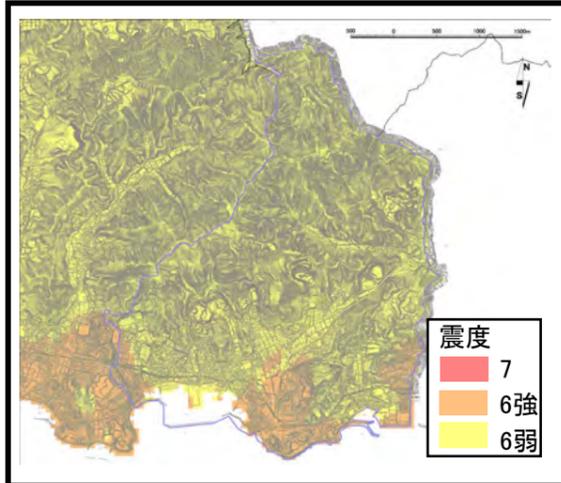
●避難環境評価 ※平成26年地震被害予測調査結果より

避難者数 ※津波による建物倒壊避難者も含む	680人
--------------------------	------

●被害想定 ※平成26年地震被害予測調査結果より

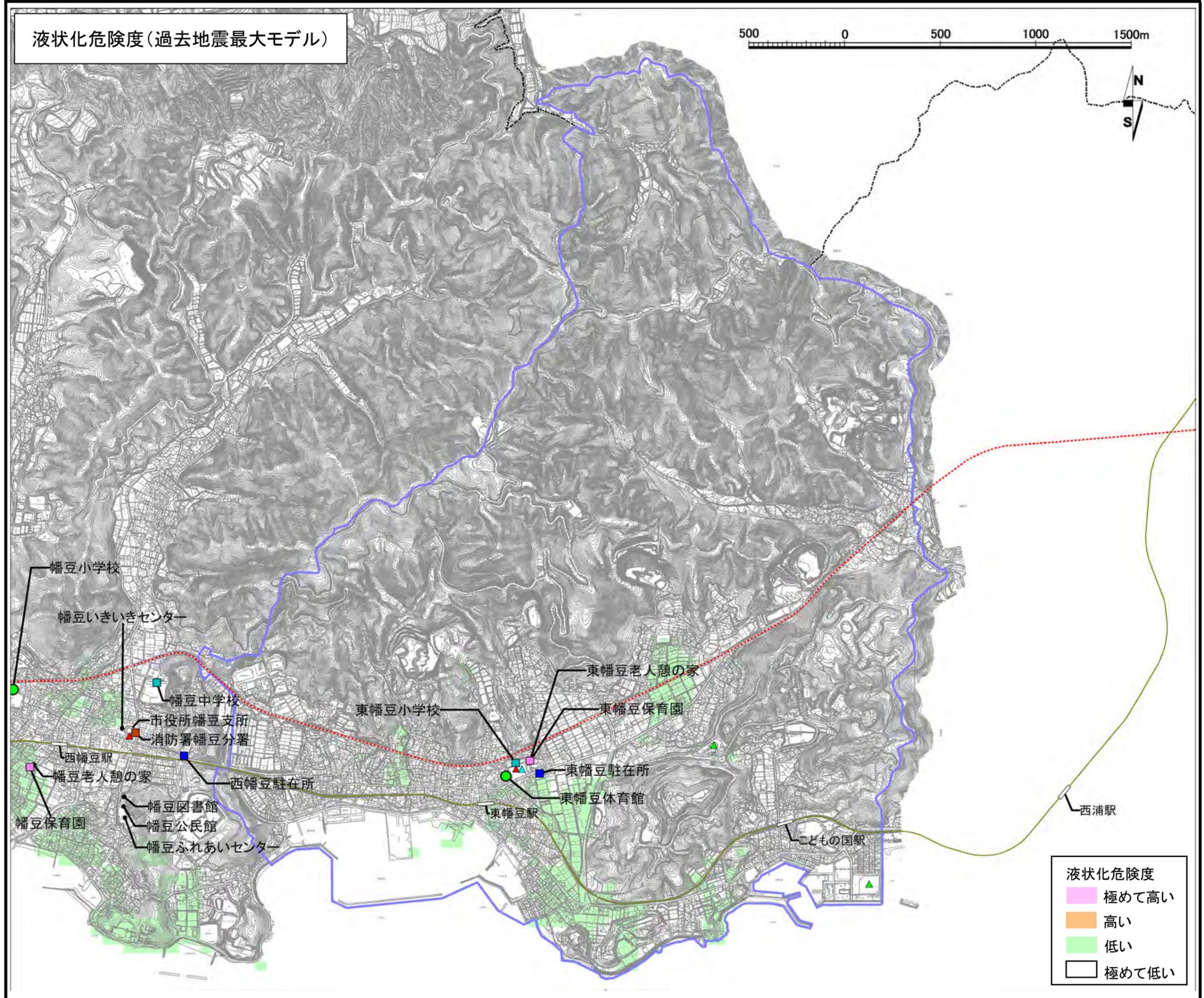
建物全壊数	119棟
建物半壊数	393棟
死者数	21人
重傷者数	13人

●過去地震最大モデル震度分布図



●凡例

- 指定緊急避難場所・指定避難所(地震時使用可)
- 福祉避難所
- ◎ 市役所・支所等
- 警察署等
- 消防署等
- 救急病院
- ◆ 水位観測所
- ◆ 雨量観測所
- 学校
- 幼稚園・保育園等
- ▲ 防災倉庫・防災資機材庫・その他備蓄倉庫等
- ▲ 水防倉庫
- ▲ 飲料水兼用耐震性貯水槽
- ▲ 防災活動拠点
- ▲ 衛生施設
- その他の施設
- 小学校区界
- 市町村界
- 鉄道
- 緊急輸送道路



液状化危険度
極めて高い
高い
低い
極めて低い

西尾市地区別防災カルテ

④津波被害

地区No	26
地区名	東幡豆小学校

●地区別津波被害の特性

南岸部の低地で最大3m以上5m未満の浸水が想定されている。
 当地区の避難目標は、東幡豆体育館である。
 地区内にある避難所はいずれも浸水想定区域外に位置する。

●避難環境評価

津波一時待避所収容者数	0人
避難所収容者数※1	451人
避難者数	4341人
津波浸水想定区域外までの距離※2	約 - km

※1津波被害における避難所収容者数は「命を守った後に避難生活を送ること」を想定して算出している。

※2西尾市津波避難計画(令和5年4月修正)に記載された校区のみ記載している。

●津波浸水深

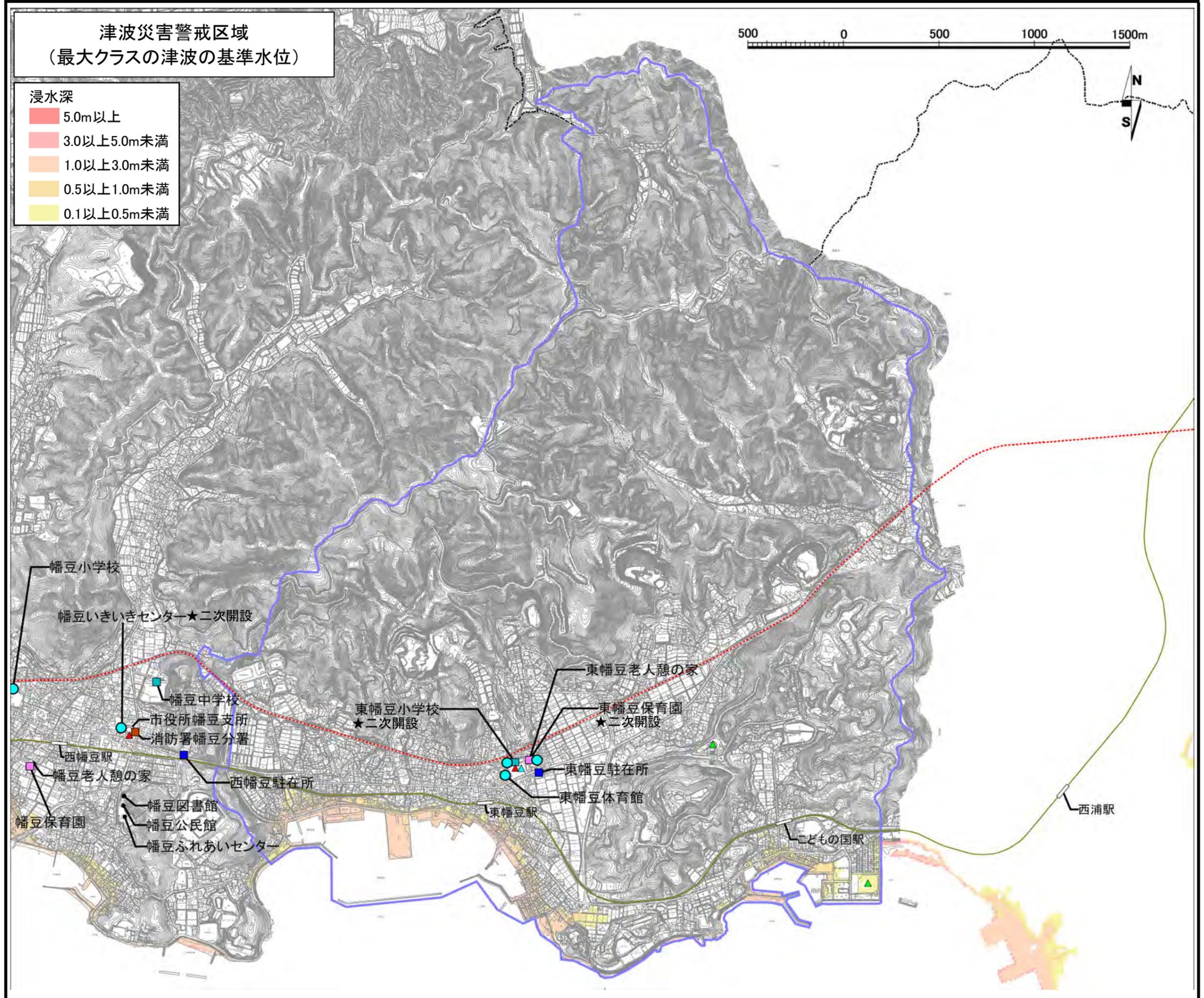
最大クラスの津波の基準水位	
最大津波水位	3m以上5m未満
過去地震最大モデル(参考)	
最大津波浸水深	3m以上4m未満

●津波発生時の避難先

避難目標: 東幡豆体育館

●凡例

● 指定緊急避難場所	■ 学校
● 指定避難所 (津波時使用可)	■ 幼稚園・保育園等
● 津波一時待避所	▲ 防災倉庫・防災資機材庫・ その他備蓄倉庫等
● 福祉避難所	▲ 水防倉庫
● 市役所・支所等	▲ 飲料水兼用耐震性貯水槽
● 警察署等	▲ 防災活動拠点
● 消防署等	▲ 衛生施設
● 救急病院	● その他の施設
◆ 水位観測所	
◆ 雨量観測所	
— 小学校区界	- - - 市町村界
— 鉄道	- - - 緊急輸送道路



西尾市地区別防災カルテ

⑤高潮被害

地区No	26
地区名	東幡豆小学校

●地区別高潮被害の特性

南岸部の低地で主に0.5m以上3m未満の浸水が想定され、一部では浸水深が3m以上となる。指定避難所である東幡豆小学校、東幡豆体育館は、いずれも浸水想定区域外に位置する。

●避難環境評価

避難所収容者数	4746人
避難者数	4341人
最長避難距離	約 3.0 km

●高潮浸水深

最大高潮浸水深	3m以上5m未満
---------	----------

●凡例

● 指定緊急避難場所・指定避難所 (高潮時使用可)	■ 学校
● 福祉避難所	■ 幼稚園・保育園等
◎ 市役所・支所等	▲ 防災倉庫・防災資機材庫・その他備蓄倉庫等
■ 警察署等	▲ 水防倉庫
■ 消防署等	▲ 飲料水兼用耐震性貯水槽
■ 救急病院	▲ 防災活動拠点
◆ 水位観測所	▲ 衛生施設
◆ 雨量観測所	● その他の施設
— 小学校区界	- - - 市町村界
— 鉄道	- - - 緊急輸送道路

